

常葉大学 地域貢献センター

活動報告



目次

はじめに	2
地域貢献センター長 ご挨拶 (『地域貢献と建学の精神』)	
地域貢献センターのご案内	
地方自治体等との包括的連携の推進	5
包括的連携協定の締結	
協定締結先との連携事業	
地域交流・連携推進事業 / 地域貢献事業	8
令和元年度採択事業	
地域や企業等との連携事業	9
連携事例	
学生のボランティア活動	10
Link	
ココスタ	
学生の地域貢献活動への支援	11
とこは未来塾 ~TU can Project~	
事業報告会	
公開講座等の開催	13
大学公開講座	
学部・附属センター主催の講座	
市町等との連携による講座	
メディア等での報道	15
地域貢献センター関連事業のメディア等での報道	

はじめに

地域貢献センター長 ご挨拶

～地域貢献と建学の精神～

常葉大学 地域貢献センター長 須佐 淳司



日ごろは本センターの運営にご支援とご協力をくださり誠にありがとうございます。「地域貢献」は本学の教育理念のひとつに掲げているものです。地域貢献センターは、地域の課題解決ニーズに応えて学生の主体性を育てる拠点として、おかげ様で発足3年目を迎えることになりました。このたび、2019年度(2019年4月～2020年3月)の地域貢献活動の成果をまとめた、『活動報告』を公刊しました。

さて、新型コロナウイルス蔓延の影響が、地域社会・経済へ衝撃を与えております。これまでわたしたちが経験したことの無い、社会生活へのさまざまな支障が生じています。

いまの社会混乱のなかで、改めて、創立者木宮泰彦先生が常葉学園を創設した際の「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない」という信念に立ち戻る必要性をつよく感じております。

「より高きを目指して」、本年度も、地域の皆様や本学教職員、その他関係者の皆様のご支援を賜りながら、常葉大学のセンター拠点として、地域に貢献する人材の育成に引き続き努めていく所存です。あわせて、地域貢献を通じて学生や地域の皆様になにができるのかを問うていきたいと考えております。

地域貢献センター教職員一同を代表しまして、本学の地域貢献活動への一層のご理解とご協力ならびにご支援をおねがい申し上げます。

地域貢献センターのご案内

～地域課題を解決し、学生の主体性を育てる新たな拠点～

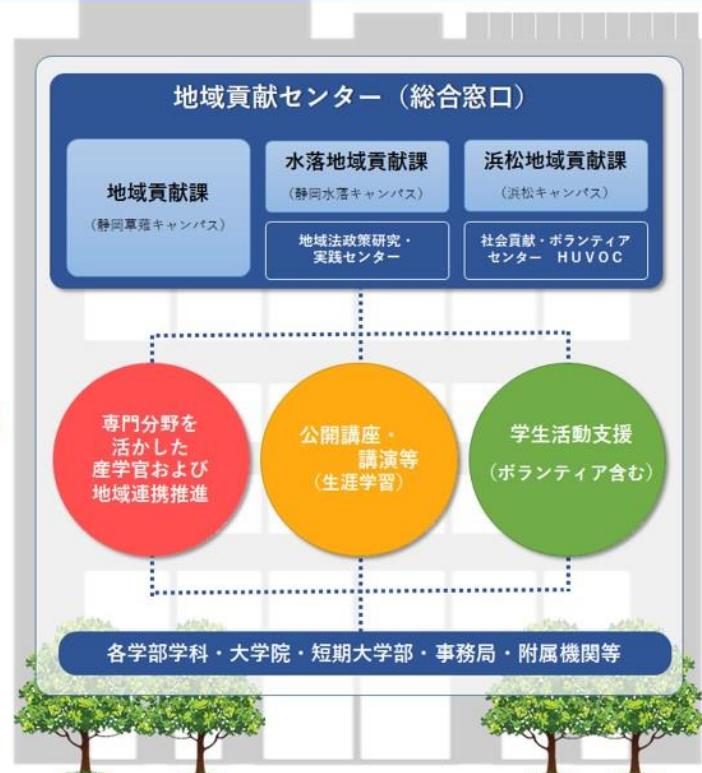
今、教育、研究に加え「社会貢献」が大学の果たすべき第3の使命として位置づけられています。



常葉大学は、2018年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。このセンターの開設により、地域社会の動向やニーズを的確に捉えて、本学が地域連携の拠点となるよう努めています。

開設の目的

- ◆建学の精神および教育理念を**具現化**する
- ◆高等教育機関としての**「知的財産」を社会へ還元**する
- ◆地域社会の**活性化および進展**に貢献する
- ◆大学が**組織的**に活動していくための「地域連携の拠点」とする
- ◆学生と地域の方をつなげることで**実践的な教育を推進**する
- ◆地域社会に**貢献できる人材を育成**する



地域貢献センターの使命

常葉大学は、「地域貢献」を教育理念の一つとして掲げ、地域社会に貢献できる人材育成に努め、地域との連携強化に取り組んでいます。地域・地方自治体等との連携事業の取組に対し、教職員とともに学生団体にも支援を行っています。

本学の学生の9割が県内出身者で、その多くが県内で就職しており、地域と本学の結びつきは強く、地域活性化の必要性は地域の皆様方から強く求められています。また、若者が集まる大学に対する地域の皆様方の期待も非常に高まっています。

地域に開かれた大学として、本学の持っている資源を地域の方々のために活用していくために、地域貢献センターはその使命を果たします。



具体的な取り組み

◆自治体等との連携・協力

常葉大学の包括連携協定締結先と連携できる内容を協議し、お互いにとって有意義な協力関係を築いていきたいと考えております。また、「静岡市文教エリア等の発展に向けた相互連携協議会」を、静岡大学、静岡県立大学及び短期大学部、静岡英和学院大学及び短期大学部とともに立ち上げており、学校の枠を越えて、より地域の活動に積極的に参加できるよう、幹事大学としての役割を果たしています。

各市町からの助成金を活用し、教員と学生とが地域の課題解決のために取り組む事業に積極的に参加しています。

◆学生支援

学生ボランティアの地域派遣に際しての窓口業務を担当とともに、学生独自の地域貢献活動への支援を行うため、学生による地域貢献プロジェクト「とこは未来塾—TU can Project」を企画し、学生活動への支援を行っています。

◆公開講座

社会人の学び直しや生涯学習の一環として、本学学生以外の方々への高等教育機会を提供するため、地域のニーズに合致した講座を開設しています。

◆広報活動

地域連携を強化し、地域の情報を収集とともに大学の情報発信に努めています。

地方自治体等との包括的連携の推進

包括的連携協定の締結

これまでに協定を締結した自治体等は次のとおりです。

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	2015年10月13日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	2015年11月13日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	2016年3月24日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	2016年6月14日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	2017年3月27日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川市体育協会	2017年9月15日
7	常葉大学とI Love しづおか協議会との連携・協力 に関する協定書	I Love しづおか協議会	2017年10月26日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る 協定書	静岡市内の複数高等 教育機関等	2017年10月26日
9	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との連携に 関する協定書	公益財団法人浜松市 体育協会	2018年7月27日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する 協定書	株式会社静岡銀行	2018年8月28日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する 協定書	静岡県警察	2018年11月1日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人日本財団学 生ボランティアセンター	2019年12月16日



協定締結先との連携事業

1) 県内自治体（市町）等との連携で実施した主な事業

◆ 松崎町

- ・松崎町のうたコンサート（教育学部・造形学部）
- ・石部棚田の保全活動（社会環境学部）



◆ 掛川市

- ・シティプロモーション市民協働会議への参画

◆ 藤枝市

- ・藤枝市地域政策研究・創造事業
- ・藤枝市女子学生まちづくり推進会議「ふじえだガールズ・ミーティング」
- ・ふじえだ健康都市創生総合戦略懇話会



◆ 静岡市

- ・しづおか中部地域課題解決事業
- ・SGDs for TGC Shizuoka 2020
- ・駿河区フォトロゲイニング in 静岡市
- ・しづおかカラダに eat75（食育ワークショップ、0円カフェ）
- ・草薙まちづくりインターンシップ
- ・0・RI・ZU・RUプロジェクト
- ・生涯活躍のまち静岡推進協議会への参画



◆ 浜松市

- ・浜松市と大学との連携事業（大学生による講座開講）
- ・浜松市医療救護訓練への参画
- ・はまきたキッズイベント
- ・浜松シティマラソンでのランナーケア活動、選手誘導
- ・浜松市 SDG s 推進プラットフォームへの参画
- ・オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業
(地域セミナー、ワークショップ、市民フォーラム、教育推進校での教育実践)



◆ 掛川市体育協会

- ・掛川・新茶マラソンにおけるランナーケア
- ・「プレスボ教室」体験会
- ・市民スポーツ交流フェスティバルでのケア活動



◆ 浜松市体育協会

- ・小学生陸上教室「足を速くする教室」
- ・浜松市スポーツ少年団交流会
- ・浜松市地域スポーツ指導者養成講習会

2) I Love しづおか協議会との連携で実施した事業

- ・初夏のおまちクリーンキャンペーン
- ・らぶしづインター
- ・冬しづ 2019-2020 おまち HIKARI のワンダーランド



3) 静岡市文教エリア等の発展にむけたプラットフォーム事業

- ・市民講座「静岡をワクワクさせるスポーツ×エンターテイメントの力」
- ・SD 研修会「静岡市文教エリア等の発展に向けた課題等の理解及び解決策の模索」



4) 静岡銀行との連携で実施した事業

- ・働き方改革×テレワークセミナー
- ・草薙駅周辺清掃活動



5) 静岡県警察との連携で実施した事業

- ・しづおかランニングパトロール (SRP)
- ・特別講義「犯罪被害者への理解と支援」
- ・防犯教室
- ・少年の立ち直り・健全育成 大学生ボランティア
- ・防犯ガイドブック作成 (ポルトガル語・韓国語・スペイン語)



6) 日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo) との連携で実施した事業

- ・台風 19 号災害支援 (長野市穂保地区)



地域交流・連携推進事業

本学の教職員が個人及びグループで地域住民や関係機関等と連携して実施する研究に対して支援する事業です。

No.	研究テーマ名	代表者
1	非認知能力を高める保育実践開発プロジェクト	保育学部 教授 山本 瞳
2	静岡市の東静岡にぎわい創出事業への支援	教育学部 准教授 堀切正人
3	発芽玄米を用いた蒸しパンの血糖値上昇抑制効果の検証と常葉オリジナル商品開発の検討	健康プロデュース学部 准教授 池谷昌枝
4	地域特産品を利用した常葉オリジナル商品の開発	健康プロデュース学部 講師 杉浦千佳子
5	天竜浜名湖鐵道の沿線活性化を目指した旅行周遊プランの造成と実践	経営学部 講師 村瀬慶紀

※事業報告会を令和2年9月に実施予定

自治体等の助成金を活用した地域貢献事業

◆ しづおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業（静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町）

しづおか中部連携中枢都市圏と地域大学との連携拡大の促進や、大学の研究成果を地域の発展に活かすことを目的とし、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町と一体となって実施する事業です。

No.	課題名（連携市）	担当教員名
1	市内テレワーク施設の在り方整理・紹介資料作成（静岡市）	経営学部 准教授 小豆川裕子
2	大井川鐵道沿線地域の活性化（島田市）	外国語学部 准教授 鈴木克義

◆ 藤枝市地域政策研究・創造事業

藤枝市と本学との包括連携に関する協定の一環として、藤枝市の地域課題の解決に向けた学生参加による方策の提言、実践的な研究に対して助成される大学連携研究事業です。

No.	課題名	担当教員名
1	自転車ツーリズムとゲストハウスによる地域振興の研究	外国語学部 准教授 鈴木克義

◆ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

浜松市と浜松市内各大学（常葉大学・浜松学院大学・聖隸クリリストファー大学・浜松医科大学）が相互協力および連携のもと、双方の資源を有効に活用して子供たちへのオリンピック・パラリンピック教育を推進する事業です。

No.	課題名	担当教員名
1	浜松市内小中学校におけるオリ・パラ教育の推進・協力	健康プロデュース学部 教授 小柳好生

◆ 静岡県さんきゅうパパ普及促進事業（大学生の企画・提案）

静岡県が推進する男性の育児休業取得促進や、家事・育児を率先して行う環境整備のための政策研究、施策提言の作成等を県内の大学生に委託する事業です。

No.	課題名	担当教員名
1	育休取得促進のための企業向け講座の企画・実施	健康プロデュース学部 教授 柴田俊一

地域や企業等との連携事業 (一例を紹介)

◆ 日本赤十字社静岡県支部

紙芝居「さのつねたみものがたり」原画制作（造形学部・キムゼミ）



◆ Peaterpan (ピーターパン)

PEATERPAN オリジナルエコバッグの企画、制作（経営学部・坪井ゼミ、造形学部・安武ゼミ）

◆ MARK IS 静岡

MARK IS 静岡×常葉大学 マーケティングゼミ（経営学部・坪井ゼミ）



◆ 浜松いわた信用金庫

天浜線人と時代をつなぐ花のリレー・プロジェクト

（こども健康学科・中村ゼミ）



◆ 株式会社近鉄リテーリング

東名高速道路エクスパーサ浜名湖で学生発案の丼物を販売（健康栄養学科）



◆ 奥浜名湖商工会加盟事業者

「みそまん」の開発協力、「みそまん」を活用した観光プラン提案（経営学部、地域貢献サーク Cocoa）

◆ 天竜浜名湖鉄道株式会社・遠州信用金庫

自転車で巡る「ゆったりのんびり天浜線ポタリングマップ」制作（経営学部・村瀬ゼミ）



◆ 洋菓子店のモンターニュ（株式会社 ウサギヤ）・株式会社浜松ベジタブル

地元野菜を使用したクッキー開発・販売（健康栄養学科）



◆ 雅正庵

SNS（インスタグラム）作成協力（経営学部・坪井ゼミ）



◆ 静岡市立清水有度第二小学校

草薙の街 地域ふれあいDAY～つなぐ！草薙ジェネレーション～

◆ 大伸木工株式会社（工場マルシェ実行委員会）

工場マルシェ



◆ 附属橘高等学校

地域との協働による高等学校教育改革推進事業



学生のボランティア活動

Link

Link とは…

草薙キャンパス内にある有志のボランティアサークルの代表学生が集まって立ち上げた学生ボランティア・スタッフの総称です。学内公認組織「常葉大学草薙キャンパス学生ボランティアセンター「Link」」として地域貢献課が活動を支援しています。主な活動内容は、(1)ボランティアサークル間の連携・情報共有 (2)常葉大生主催による独自企画のボランティア活動 (3)学生に対するボランティアコーディネート、マッチング (4)SNSを活用した大学内外向けの情報共有などに取り組んでいます。

(活動実績)

- ・近隣小学校児童向け夏休みイベント「常葉大学のおにいさん・おねえさんと勉強しよう」の企画・実施
- ・近隣小学校児童向け障がい者スポーツ体験イベント「トコハ de パラスポ」の企画・実施
- ・Link 主催『ボランティア講座』の開催 (3回)



ココスタ

ココスタ とは…

ゼミやサークル、クラブなど、社会貢献・ボランティアセンター(HUVOC)に登録している11の団体の総称です。各団体は、それぞれの特色を活かした社会貢献活動やボランティア活動を行っており、これらの団体が交流を深め、より幅広く様々な要請に応えることを目的に結成されました。主な活動内容は、(1)ボランティアサークル間の連携・情報共有 (2)常葉大生主催による独自企画のボランティア活動などを行っており、さらに発展的な社会貢献やボランティア活動に繋げています。

[登録団体] 地域貢献サークル Cocoa、食プロデュース、こボラ、AT サークル CATS、木村ゼミ、BBS 会、障☆spo SC、Thunder Birds、SinQ、陸上競技部、3.11 はままつ東北復光プロジェクト

(活動実績)

- ・はまたきキッズイベントへの参加
- ・掛川・新茶マラソンへの協力
- ・ひまわり講座の運営、さんぽ会への協力、フードドライブへの参加
- ・ココスタ報告会 (月1回) ・交流会の開催 (年2回)



その他

- ・地域からの要望に応じた学生ボランティアの募集
- ・学生のボランティア活動支援、求めに応じたマッチングの実施



とこは未来塾 ~TU can Project~

学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助などの様々な支援を行う事業です。このプログラムに取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力が地域の活性化に結び付き、最終的に学生の社会性の醸成に繋がることを期待しています。

◆ 2019年度採択事業

応募のあった26件プロジェクトから、審査の結果、15プロジェクトが採択されました。

No.	プロジェクト名	グループ名
1	瀬名キャンパス大学短大活性化 「輪を作り、輪を広げ、地域に大学を開く」プロジェクト	瀬名キャンパス活性化委員会
2	三保 いっとコ! ~世界文化遺産からの招待状~	小豆川ゼミ
3	放置竹林の解消と竹材の活用について	山本隆三ゼミ
4	静岡市における豪雨災害に備えた、環境教育による街づくりの推進	自然体験活動研究会
5	石部棚田の魅力をぎゅぎゅっと伝え隊	石部棚田の魅力をぎゅぎゅっと伝え隊
6	西里村まるごとエコミュージアムプロジェクト第2期	小杉山ゼミ
7	とこはお茶物語プロジェクト ーお茶農家とのコラボレーションによる児童文化財を用いたお茶文化の継承ー	稻垣ゼミ 2年
8	子どもの遊び広場	村上ゼミ
9	清水の魅力を観光客・外国人に伝えるマップ制作プロジェクト	清水マップ制作プロジェクト
10	北街道プロデュース計画	ミズオチ交流会
11	学生トレーナーによる高校運動部に所属する生徒へのセミナー事業	C A T S
12	アスリートのためのサポ飯ー腹が減っては勝負は出来ぬー	食プロデュース1
13	Health for all people~大人も子供もみんなで元気に~	井口ゼミ
14	大学生による「自然災害時における自発的な行動の促進及びきっかけづくり」	3.11 はままつ東北復光プロジェクト
15	南海トラフ巨大地震に活かす健康サポート支援に関する継続調査	ThunderBirds

◆ 事業報告会

2月26日（水）に静岡草薙キャンパスにて、「2019年度とこは未来塾 －TU can Project－ 報告会」を開催いたしました。

第一部の活動報告（口頭発表）は、14事業を3グループに分け3会場で実施しました。発表10分、質疑応答5分の与えられた持ち時間で、それぞれの代表者を中心に、スライド以外にも映像や実物を披露するなど、事前に準備を重ねた熱の入った真剣な発表が行われました。



それぞれのグループの座長は、健康科学部・内田全城准教授と教育学部・田井優子准教授と外国語学部・小池理恵教授が務め、豊富な経験を活かして学生を導く進行となりました。

口頭発表終了後、各座長からの講評があり、学生自主企画への評価、本事業を通じた地域貢献と学生自身の成長を期待する言葉が贈られました。

地域貢献センター・須佐淳司センター長からの総評では、事業を通じて得た経験や地域貢献への熱意が今後の学生生活で糧となり、次年度以降も継続する地域貢献活動に期待する旨の評価がありました。

第二部のポスターセッションおよび学生交流では、採択15事業に参加した学生が一堂に会しての事業間交流を実施しました。ポスターの前では、口頭発表では伝えきれなかった、事業で苦心した点、今後に向けた課題や抱負など、1年間の事業に対する思いを発表。地域貢献センター・木村佐枝子副センター長から提案されたSNSを用いた学生交流方法を実践しながら、いつもは別キャンパスでなかなか接点を持てない仲間との情報交換や交流を楽しみました。

今回の報告会を通じて、学生による地域貢献活動の芽が育っていることを実感すると同時に、次年度の「とこは未来塾」への期待が高まりました。



公開講座等の開催

大学公開講座

本学の教育理念の一つである「地域貢献」を目的とし、本学の重要な使命である「諸事業を通した地域社会の活性化・進展に貢献する」という開かれた大学を象徴する事業の一環として公開講座を実施しています。

令和元年度は、「SDGs【持続可能な開発目標を考える】」「人生100年時代を迎えて【教養を深める】」「令和元年Pick Up!」の3つをテーマに掲げ、18講座 全60回の講義を開催しました。



No.	講座名	実施学部	回 数
1	ハンター入門講座	社会環境学部	全6回
2	健康寿命を延ばそう!!	健康科学部・保育学部	全2回
3	地域資源とSDGs	造形学部・外国語学部	全3回
4	「人生100年時代」生涯現役生活を送るための社会参加とリハビリテーション	健康科学部	全3回
5	現場の勘に頼らない、イキイキと働く職場づくり	経営学部(浜松キャンパス)	全3回
6	思春期以降を見据えた乳幼児期から学齢期に必要な育児の知識	保健医療学部	全2回
7	室内楽の世界 ～ヴァイオリン2本とピアノによるトリオ作品の魅力～	教育学部	全2回
8	美術館の楽しみ方	教育学部	全4回
9	英語多読をとおして Happy reading してみませんか？	外国語学部	全5回
10	ウナギ文、コンニャク文とは-比べてみると楽しい英語と日本語	外国語学部	全2回
11	文学から知る世界	外国語学部・経営学部 教育学部	全5回
12	民法を知って、令和を賢く生きよう	法学部	全5回
13	生活に役立つ教養：論語と英語	経営学部(浜松キャンパス) 健康プロデュース学部	全3回
14	常葉短大が拓く ことばと音楽の世界(旧シトラスセミナー)	短期大学部	全4回
15	修復的司法一対話による犯罪解決を求めてー	法学部	全2回
16	経済やビジネスをやさしく学ぶ	経営学部(浜松キャンパス)	全3回
17	こころとからだの健康講座	健康プロデュース学部	全4回
18	人工知能を知る～AIの基礎知識から最新の研究まで～	健康プロデュース学部	全2回

学部・附属センター主催の講座等

講座名	実施学部
第1回 健康・医療シンポジウム 「超高齢社会を元気社会に—認知症とフレイルの解決にむけてー」 全2回	健康科学部
食品ロスを知ろう！学ぼう！考え方！	健康プロデュース学部

市町等との連携による講座等

講座名	実施学部
静岡市生涯学習センターと常葉大学との共催講座 <ul style="list-style-type: none"> 「静岡の自然環境から環境保全や自然との関わり方について考える」 全3回 「デッサン講座一本質を捉える眼ー」 全5回 「現代社会を読み解くー 法律、経済、政治の視点から」 全3回 「健康づくりー 医療、介護、心の健康の視点から」 全1回 「植民地から生まれた現代ー韓国・台湾・ブラジルの新しい見方ー」 全3回 	社会環境学部 造形学部 法学部 健康科学部 外国語学部
静岡市生涯学習交流館での出前講座 <ul style="list-style-type: none"> 両河内生涯学習交流館「孫育ての極意」 三保生涯学習交流館 「碧眼と麒麟ーフロイス・信長・光秀」 	保育学部 教育学部
静岡市大学リレー講座 (全5回の講義を市内5大学が連携して実施) <ul style="list-style-type: none"> 「清水港を生かした観光戦略を考える」 	経営学部
プレ金大学 (経済産業省「プレ金」事業に静岡市と連携して参画) <ul style="list-style-type: none"> 「室内学の世界～ヴァイオリン2本とピアノによるトリオ作品の魅力～」 全2回 「ウナギ文、コンニャク文とは-比べてみると楽しい英語と日本語」 全2回 	教育学部 外国語学部
富士市民カレッジ <ul style="list-style-type: none"> 「こころとカラダのストレス管理」 全6回 	教育学部
静岡県教育員会プログラミング研修会 <ul style="list-style-type: none"> 「プログラミング教育の必要性」 	教育学部
浜松市と大学との連携事業 大学生による講座 <ul style="list-style-type: none"> 「自分でできるセルフケア」 「コミュニケーションを引き出すワークショップ」 「速く走るために(バスケットボールと走りの講座)」 「チャレンジバレー」 「健康長寿のための知的食生活のススメ」 「親子で楽しむ格闘系エクササイズ」 「走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き」 「WalkingをThinking」 「足・腰 鍛えて、健康寿命を延ばそう」 「子供も予防！ロコモティブ・シンドローム」 	健康プロデュース学部 保健医療学部
浜松市民アカデミー <ul style="list-style-type: none"> 「がんの成り立ちを知り、がん予防に活かす」 	保健医療学部
浜松市コミュニティ・スクール推進活動 <ul style="list-style-type: none"> 「引佐地区のよりよい未来を考える日」 	教育学部
浜松市精神保健福祉センター/浜松国際交流協会 支援研修会 <ul style="list-style-type: none"> 「子供の特性を理解する」 	教育学部
はままつ子育てネットワーク・新米パパ応援講座 <ul style="list-style-type: none"> 「パパと一緒に！遊び天国！」 	健康プロデュース学部



メディア等での報道（一部抜粋）

No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
1	2019年 4月12日	静岡新聞 朝日新聞	自転車で巡る天浜線マップ 産学官金で作製	天竜浜名湖鉄道沿線地域を自転車で散策・観光する利用者向けの冊子「ゆったりのんびり天浜線ポタリングマップ」を配布する。マップは常葉大浜松キャンパスの学生や県、沿線市町など産学官金が連携して作製。
2	4月16日	静岡新聞	おむすび作り楽しく 焼津の学生カフェで体験会	常葉大生が運営する焼津市駅北の学生カフェ「むすびカフェ」でおむすび作り体験会を開催。地域住民や県外の客らが参加しオリジナルのおにぎりを作成。
3	4月21日	伊豆新聞	棚田保全へ「あぜ塗り」 松崎で常葉大・社会環境学部新入学生120人がキャンプ	松崎町で常葉大社会環境学部による新人キャンプが行われ120人が参加。同大は棚田の保全活動を通じた地域資源の発掘、世代間継承などの活動を展開。2015年には棚田以外でも町と連携し、地域社会の発展を目指すため包括連携協定を締結。
4	5月11日	静岡新聞 中日新聞 朝日新聞	消費者被害防止 大学生呼び掛け	5月の消費者月間に合わせてJR静岡駅で街頭啓発活動を実施。常葉大の学生でつくる防犯サークル「ジャスティス」をはじめ関係12団体から約50人が参加。
5	5月27日	静岡新聞	五輪・パラ教育 4大学連携	常葉大を中心とした浜松市内の4大学が連携組織を構成し小中学校でのオリンピック・パラリンピック教育を実施。専門性や人材を活かしたアスリート・指導者の派遣、障害者理解、スポーツ医学の学習等を企画。
6	5月28日	静岡新聞	大浜海岸でフェスタ	静岡市駿河区の大浜海岸で様々なイベントを繰り広げる「大浜ビーチフェスタ」が開催。常葉大造形学部の学生は、インスタ風の記念撮影ができるボードを作成。ペーパークラфт体験のブースも出展した。
7	6月10日	大学新聞	観光公式WEBサイトで 学生がモデルコース紹介	静岡県の魅力を県内外に発信する静岡県文化プログラムのモデルルートの造成やPRに常葉大学の学生が協力。学生が紹介するコースがHPで公開されている。
8	6月27日	静岡新聞	高齢者の身体能力測定 西区・デイサービスセンターと常葉大ゼミ	浜松市西区のデイサービスセンターと常葉大健康プロデュース学部の井口ゼミは16年からセンターの利用者の心身向上を目的に身体能力測定に取り組んでいる。

No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
9	7月7日	静岡新聞	商店街イベント学生の視点で	静岡市葵区の市民会館通り商店街で開催される「七夕バザール」に向けて常葉大のミズオチ交流会が常葉高校でイベントに合同参加する生徒向けに説明会を実施。同会の桜井允人さん（法学部）のコメント「学生の視点から地域を活性化していきたい。」
10	7月20日	静岡新聞	子ども食堂開店 学生ら運営参加	子どもの居場所づくりや貧困対策を進めるNPO「静岡市子ども食堂ネットワーク」が清水有度第二小の児童らに食事の提供活動を開始。特別養護老人ホーム「まごころタウン静岡」で実施した今回の取り組みには常葉大学保育学部の学生らがボランティアで参加。
11	8月4日	朝日新聞	手作りの紙芝居で戦中の日常教える	静岡平和資料センターが小学生を対象にした「夏休み平和教室」を開催。常葉大学教育学部3年の根岸萌香さんと岡沢晴日さんが手作りの紙芝居で戦時中の学校生活や修正の様子などを講義。
12	8月7日	中日新聞	地元野菜でクッキー 常葉大生が開発へ	常葉大健康プロデュース学部の学生有志が洋菓子製造のウサギや、野菜の加工を手掛ける浜松ベジタブルと協働し、地元の野菜の粉末を使用したクッキーの開発に乗り出し、同年代の若者の野菜摂取不足の解消につながる商品づくりを目指す。同学部が地元企業と協働して商品開発するのは初めて。
13	8月29日	静岡新聞	児童の下校見守り 葵小で防犯パトロール	通勤や買い物、ウォーキング中の市民が防犯の担い手となる「しずおかぼうはんパトロール」の活動が静岡市立葵小で開催。見守り活動の市民の他、市職員、静岡中央署員、常葉大学防犯ボランティアサークル「ジャスティス」、ランパト参加者らがお揃いの腕章をつけて参加した。
14	10月7日	静岡新聞 中日新聞	北区健康フェア 親子楽しく汗流す	HUVOCは健康への関心を高めてもらう「北区★健康フェア」を開催。地域貢献事業「北区わくわく元気プロジェクト」の一環。健康栄養学科の学生がヘモグロビンや骨量などを測定、健康鍼灸学科の学生が体の痛み相談に応じた。
15	10月9日	静岡新聞	乳幼児期から学齢期に必要な育児の知識	浜松市地域情報センターで公開講座を開催。常葉大保健医療学部の野藤弘幸教授が、子どもを許すことや話し掛ける習慣を付けることの大切さについて講義。
16	10月26日	産経新聞	新聞活用法の講座開催	新聞活用企画「記者が教える新聞のツボ」と題する講座を開催。記者が新聞活用の仕方や生地の読み方などのほか理解の深め方を指導。新聞を活用してメモを取り、自分の意見を持つことの重要性などを解説。

No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
17	11月24日	東京新聞	障害児などお絵かきイベント	富士市の「障がい者と健常者の手をつなぐ会」がクリスマスの絵を描くイベントを開催。常葉大学外国語学部3年生2人が参加。いずれも教諭を目指しており、支援教育にも興味を持って参加。
18	11月28日	中日新聞 静岡新聞	浜名湖SAに新メニュー	東名高速浜名湖SAと常葉大健康プロデュース学部健康栄養学科の2、3年生による創作弁メニューコンテストが開催。2回目の今回は「ベジタリアン（野菜食）メニュー」がテーマ。グランプリと準グランプリは同SAの湖の見えるフード館で来年4月に発売予定。
19	12月1日	静岡新聞	ニュースポーツ 親子連れが体験	県市町対抗駅伝の開催に合わせ草薙総合運動場内では親子や一般を対象にした運動教室などが開催。運動教室は常葉大の学生が協力し小学校中学年までの子どもと保護者が参加。テニスボールを布でくるんだ特性のボールを使ってキャッチボールやゲームを楽しむ。
20	12月8日	静岡新聞	焼津の子育てサークル 始動 外国人親子の不安 除く場	外国出身の母親の孤独感を解消しようと焼津市と常葉大学外国語学部が連携して「多文化子育てサークル」を開設。学生との交流や情報交換の場を作ることで不安解消を図る。
21	12月12日	静岡新聞 中日新聞 浜松ケーブルテレビ	常葉大生がプランコンペ 天浜線貸し切り「豆まき」号	常葉大の学生が考案した観光プランで天竜浜名湖鉄道の貸し切り列車を運行する連携事業の審査会が開催。同鉄道会社担当者の前で観光経営学を専攻する3年生11人が3グループに分かれ案を発表。親子連れが節分を楽しむ「鬼退治豆まきトレイン」の運行が決定。
22	12月19日	中日新聞 静岡新聞	常葉大生 被災地支援を語る	常葉大浜松キャンパスのボランティアサークル「Thunder Birds」は災害被災地で取り組んだ活動報告会を開催。熊本地震被災地支援では益城町の仮設団地や小学校で学生がマッサージ、授業サポート、登校見守りを実施。台風19号被災地の長野市でも支援活動を実施。
23	12月26日	静岡新聞	SDGs音楽でアピール	SDGs吹奏楽団と市内中高校生が出演するスペシャルコンサートを開催。SDGsの14番目の目標「海の豊かさを守ろう」がテーマ。常葉大学短期大学部音楽科の学生らが中高校生72人への演奏指導を実施。
24	12月27日	静岡新聞	折り鶴集めオブジェ	静岡市が2020オリパラオブジェの折り鶴5000羽の募集を開始。オブジェの制作は常葉大学造形学部の学生が担当。

No.	掲載日	媒体名	タイトル	概略
25	12月31日 1月9日	朝日新聞 静岡新聞	防犯ガイド3言語追加 県警と常葉大作成へ	東京オリ・パラ開催に伴う訪日外国人増加に向け、県警と常葉大学が連携し、ポルトガル語、韓国語、スペイン語の「防犯対策ガイド」の作成を進めている。
26	1月16日	中日新聞	常葉大学生サークル余剰 食品回収に協力 浜松でフードドライブ	常葉大浜松キャンパスの学生ボランティア団体組織「ココスタ」は、余剰食品を集め食料困窮者に届ける活動「フードドライブ」の一環で学生や教職員から保存食品を回収。
27	2月27日	静岡新聞	三保松原に「カフェ」提 案-常葉大生ら地域課題 解決、PR策報告	常葉大、同大短期大学部の学生が地域のPRや課題解決の方策を探る「とこは未来塾」の報告会を開催。14グループが取り組み成果を発表。
28	3月6日 3月8日	静岡新聞 中日新聞	ボランティア取り組み最 高賞の常葉大	浜松学生ボランティアネットワークフォーラムで最高賞を受賞した常葉大浜松キャンパスの「Thunder Birds」が浜松市役所を訪問し鈴木市長に受賞を報告。災害支援活動や下校時の児童見守り等の取組みを説明。
29	3月11日	静岡新聞 テレビ静岡	キャンドル活動展示会 開催	常葉大浜松キャンパスで2012年から始まった「3.11復光キャンドルナイト」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となつたため、これまでの活動を振り返る展示会が開催された。今までの様子やポスター、現地での支援活動風景を掲示。



令和元年 8 月 29 日 (静岡新聞)



北区 健康フェア、親子楽しく汗流す
常葉大浜松キャンバスは5日、健康への関心を高めてもらう「北区★健康フェア」(静岡新聞社・静岡放送後援)を浜松市北区都田町の同キャンバスで開いた=写真=。

社会貢献・ボランティアセンターの地域貢献事業「北区わくわく元気プロジェクト」の一環。簡易でモグロビンや骨量の測定や、けが予防の相談など、さまざまなプログラムを用意し、教員や学生が専門知識を生かして来場者にアドバイスした。子を持つ親世代の運動不足解消を目的としたスポーツコーナーも設け、参加者は亲子で楽しく汗を流した。健康プロデュース学部・健康柔道整復学科の真鍋和親助教の開館可動床に関する講演もあった。



令和2年2月27日 (静岡新聞)

令和元年10月7日(静岡新聞)

発 行 2020年5月

常葉大学 地域貢献センター



常葉大学
常葉大学短期大学部

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>

<https://www.tokoha-jc.ac.jp/>

[地域貢献センター 地域貢献課]
〒422-8581 静岡市駿河区弥生町 6-1
TEL : 054-297-6142

[水落地域貢献課]
〒420-0831 静岡市葵区水落町 1-30
TEL : 054-297-3200

[浜松地域貢献課]
〒431-2102 浜松市北区都田町 1230
TEL : 053-428-6748